

電気代値下げと引き換え！？ ふざけるな関電！！



関電総会会場前の様子（6月28日）

6月28日、関西電力株主総会が5年連続神戸のワールド記念ホールで行われました。昨年より株主の参加が少ないように感じられましたが、関電発表では、出席株主数は683人で昨年の645人より増えていました。総会が始まる

10時まで、会場の外では8時30分から、株主への「関電に脱原発を提案してください」という呼びかけが行われました。

総会では、関西電力の岩根社長が、「エネルギー事業が本格競争時代に入る中、原子力プラントの早期再稼働などにより競争力を強化していく」と述べ、そのうえで、今月、営業運転を始めた高浜原発4号機に続き、3号機も営業運転を開始するのを前提に、8月1日に電気料金を値下げする方針を示しました。さらに、大飯原発3号機と4号機が営業運転を開始した後も、再び値下げする考えを示しました。

原発の危険性をかえりみず、電気代値下げで反対意見を抑え原発を進めようとするとは、なんと姑息な経営方針でしょうか！

若狭の原発が事故を起こしたら、関西は人が住めなくなります。近畿の水がめである琵琶湖が放射性物質で汚染され、空気も汚染されるからです。多くの人々が被曝し、将来的にがんや白血病、心臓病などになります。自分の健康・命と電気代の多寡が比べられますか！？



2017年7月7日

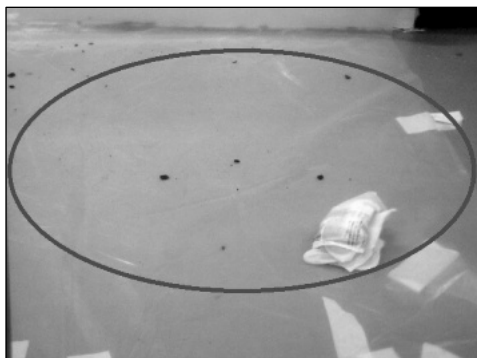
STOP原子力★関電包囲行動

ブログ：<http://stop-kanden.seesaa.net/>

連絡先：東大阪市源氏が丘16-10 源氏が丘教会気付

総会では、大株主の大阪市や京都市はじめ個人株主などが脱原発を提案しました。が、関電は、私たちのそうした意見に耳を貸そうともしません。関電はおごり高ぶった姿勢を正すべきです。

作業員 5 人が被曝！ ずさんな保管 & 作業現場



黒い点は室内に飛び散ったプルトニウムを含む核燃料物質とみられる
(写真：原子力機構大洗研究開発センター)



ビニールバッグが破裂して放射性物質が飛散した金属製貯蔵容器(中央の容器)
(写真：原子力機構大洗研究開発センター)

6月6日午前11時15分ごろ日本原子力研究開発機構(原子力機構)大洗研究開発センターの核燃料の研究施設である燃料研究棟(PFRF)108号室で作業員5人が被ばくする事故が起きました。

点検のため50代の男性職員がステンレス製貯蔵容器のふたを開けたところ、プルトニウムとウランを含む核燃料物質が入るポリエチレン製容器を包んでいたビニール製バッグが破裂しました。点検は26年間されていませんでした。

108号室の室内は広く汚染されました。5人は出入り口の外側に除染や汚染検査ができるスペースを設けるまでの間、そこにとどまらなければなりませんでした。

矢ヶ崎克馬琉球大学名誉教授はこう言っています。

「プルトニウムはアルファ崩壊する。アルファ線はヘリウムガスとな

る。プルトニウムを包含したアクチニウム崩壊系列では不活性ガスのラドンが生成することは良く知られている。ラドンが生成すると酸化物として存在した酸素がラドンと共に発生する。26年間という貯蔵時間は確率として十分その可能性を考慮しなければならない。また常に崩壊しているのだから熱が生じ、蒸気圧も考慮の対象となる。その他封入容器壁との反応なども生じ得る。ガス圧が増すのは当全予期して懸からねばならないならぬ。」

「当然このような核燃料を取り扱う機関にはそれなりの施設設備が必要である。要は放射能である核燃料と人体を隔絶する施設が必要である。人と放射性物質の間を遮断する遠隔操作ルーム等々である。」

「また人体などの除染・人体汚染を防護する設備を欠いていたところで作業させたこともまさに体制としての人命軽視の極みであることまさに『脅威』である。」

5人の尿からはプルトニウムが発見されており、内部被ばくしたことはまちがいありません。尿に出てくるほどの被ばくは相当深刻であると若狭の原発を考える会の木原壯林さんは言っています。

同センター「燃料研究棟」内には同様の貯蔵容器が計80個あり、2月から保管状態の点検を始め、事故までに31個の点検を終えていました。それまでとは違う種類の核燃料物質が入る容器の点検を始めようとしたところ、1個目で事故が起きました。同じ種類の物はまだ20個残されており、未点検容器は全体で48個あるそうです。

高浜原発のクレーン事故といい、核にかかわる仕事をしている人々、企業、機構の間に大変危険なものを扱っているという緊張感が欠如しているのではないのでしょうか？



韓国も脱原発！



古里原発1号機廃炉に向けた稼働停止を記念する式典であいさつする文在寅大統領
(6月19日 東亜日報)

韓国の文在寅（ムンジェイン）政権は6月27日、公約に掲げる「脱原発」政策の一環として、韓国南東部・蔚山（ウルサン）市の新古里原発5、6号機の建設工事を中断すると発表しました。今後世論調査などを踏まえて、完全に中止するかを最終決定するとしています。韓国政府が着工済みの原発工事を止めるのは初めてです。

27日に先立つ19日に、文大統領は古里原発1号機（釜山市）の稼働停止を記念する式典で演説し、新規原発の建設計画の白紙化や、老朽化した原発の設計寿命を延ばさない方針を表明し、新古里の5、6号機は巨費が投じられているため、白紙にするかどうか別途検討するとしていました。

新古里の5、6号機は昨年6月に着工され、2023年に稼働予定で、すでに28・8%が完成しています。約1兆6千億ウォン（約1570億円）が投じられ、工事を完全中止した場合、地元経済の損失を埋め合わせる住民への補償などでさらに計1兆ウォン（約980億円）かかるとしています。

工事を完全にやめるか再開するどうか社会的合意を得るために、電力関係者や専門家を入れない中立的な委員会を作り、世論調査などを踏まえて3カ月後をめどに最終決定するそうです。

韓国は16年現在、発電設備容量に占める原発の割合が22%。文政権の方針通りに実施されれば、設計寿命が尽きることにより29年には現在24基の原発が13基まで減ります。代わりに太陽光などの再生エネルギーや液化天然ガス（LNG）の割合を増やす予定。

40年を越えても稼働させようとする日本とエライ違いです！